

奈良の駅 シリーズ Vol.05



やなぎもと

駅名：柳本駅



柳本駅舎 外観

【駅舎概要】

所在地：天理市柳本町 1306 番地 1
 区域区分等：第一種住居地域
 構造・規模：木造平屋建 120 m²
 建設時期：昭和 5 年

【沿革】

明治 31 年 5 月：奈良鉄道京終～桜井間の開通に伴い開設
 明治 38 年 2 月：関西鉄道が奈良鉄道を合併。関西鉄道の駅舎となる
 昭和 40 年 10 月：国有化
 昭和 59 年：駅員無配置化

JR桜井線（愛称は「万葉まほろば線」）の駅シリーズ第 5 回は、柳本駅です。東には「大和青垣」と言われるなだらかな山並を望むことができます。中でも一番高い山は龍王山です。その麓には、約 600 基の奈良県最大の龍王山群集古墳群、行燈山古墳（崇神天皇陵）、黒塚古墳があります。黒塚古墳では平成 9 年の学術調査のため発掘が行われました。その現地説明会には、1 日半で 23,000 人の見学者が訪れ、1km もの長蛇の列ができ、臨時列車が運行されたそうです。今は山の辺の道散策と龍王山登山の拠点駅として利用されています。

■歴史・周辺環境等

柳本は、古事記・日本書紀の舞台として多くの古代ロマンが今も躍動しているところです。中世は、興福寺の中心的な荘園として繁栄し、近世には織田藩の領地として発展してきた歴史あふれる街です。

柳本の地名は奈良時代、興福寺に招かれたインドの高僧・善無畏三蔵（ぜんむいさんぞう）が大和巡業のおりに小川の辺に 1 本の大きな柳の木があることに感動し付近一帯を「楊本」と名付けたことにはじまるとされています。江戸時代になって「柳本」と書くようになりました。

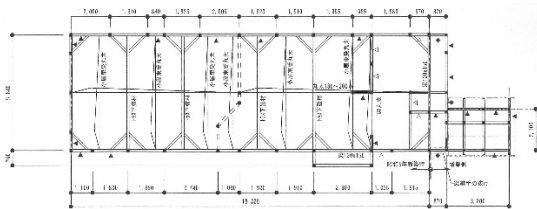
明治 31 年 5 月、鉄道開通の記念に楠の木が植えられました。駅舎横の楠は、当時に植えられたものです。駅舎の城郭風のなまこ壁が特徴です。

周辺には、伊射奈岐命とともに菅原道真公をお祀りしている伊射奈岐神社、全長 360m（周濠を含む）の巨大前方後円墳である第 10 代崇神天皇陵墓（行燈山古墳）、建物 4 棟、仏像 5 体の重要文化財のある長岳寺があります。中でも長岳寺の鐘楼門は日本最古とされています。

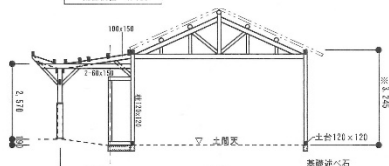
■保存・活用等

駅舎は、平成 30 年 11 月、JR 西日本より天理市が無償譲渡を受けて、現況調査の後、改修工事が実施されました。平成 31 年 4 月、駅舎内に「観光・地域交流センター」と「駅中食堂ピクトン」がオープンしました。地域製品の購入や、食事ができるスペースとなっています。また西側ホームにバリアフリー化された改札が新設され、線路西側からの利用がしやすくなりました。

令和 4 年 10 月には、待合室スペースに、ピアノ「YANAPI」が設置され地域交流が図られています。 【記：天理支部 庄田尚代】



駅舎平面図 1/100



a 通り架橋図 1/100

◆一斉路交1台帳
 ▲一階面ホード張り t=3mm以上 鋼線仕様
 △土造壁
 資料 丸水：総 社及公衆：総
 製家製柱：120x120 増築製柱：180x180

(有) 優建築工房さん提供 (現況調査時作成図面)



待合スペース



駅中食堂ピクトン



西側改札

第41回近畿建築祭和歌山大会 レポート

2024年1月20日に第41回近畿建築祭和歌山大会が、昨年竣工した和歌山城ホールで開催されました。テーマは、「～虎伏山より和歌山の歴史を探る～」です。近畿建築祭は、近畿2府4県が「近畿は一つ」を合い言葉に、建築士の活動事業及び相互交流等を目的に昭和50年から開催されています。今回、奈良県建築士会から20名が参加し、その内容をレポートします。

午前の部の式典では、まず、元日に起こりました能登半島地震で亡くなられた犠牲者に対して黙祷が捧げられました。それから開会宣言のあと、近畿建築士会協議会 岡本代表会長や和歌山県建築士会 池内会長ほか、来賓の方々の挨拶がありました。式典の最後は、次回開催の滋賀県建築士会へ大会旗の引き継ぎが行われ、第42回近畿建築祭は令和6年9月28日に開催予定であることを発表されました。



続いての基調講演は、額田雅裕先生による「和歌山城下町の景観と観光」と題して講演があり、和歌山城の特徴として、城の多くは一方が山や崖を配していますが、和歌山城は城下町の中心にあること、また、城の西側には砂丘があることなどを挙げ、絵図等により当時の景観を解説いただきました。



次に、大山僚介先生による「戦後の和歌山城天守閣再建」と題して、和歌山城は1585年秀吉が弟の秀長に命じ築造されましたが、その後、1回目は雷、2回目は昭和20年に戦争で消失され、現在の城は、1958年に鉄筋コンクリート造で再建され、外観が史実に忠実に復元されていてこれは他にない特徴のようです。最後に、水島大二先生より「和歌山城の魅力-天守は芸術作品」と題して、現在に残る和歌山城がどれほどまでに忠実に再建されているかを解説いただきました。

午後の部のエクスカージョンは、①和歌山城内散策コースと②城下町散策コース、セッションは③防災と歴史的建造物-近畿のネットワークを考えるや④青年部会による近畿あーきてくとVol.31(次頁)、⑤女性部会による近畿の「魅力ある和の空間」パネル展示に分かれ行われました。以下、紹介します。

①城内散策コースは、水島大二先生の案内で散策し、普段一般に公開されていない場所や建物内部を見学したり、堀を木舟で遊覧したりといろ

んな角度から和歌山城を楽しむことができました。②城下町散策コースはホームページに掲載します。



【記：情報・広報委員 福田成生】

③防災と歴史的建造物～近畿のネットワークを考える～は、令和4年「災害時における歴史的建造物の被災確認調査および技術支援に関する協力協定」が建築士会連合会を含め5団体で締結され、その協定内容を学び、被災した未登録の歴史的建造物の状況を的確に把握し、復旧を支援するための近畿のネットワークを事前に構築するためのセッションでした。まず、国立文化財機構文化財防災センターの小谷竜介文化財統括リーダーより、協力協定の概要並びに本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震について講演をいただいた後、和歌山県建築士会 中西重裕氏をコーディネーターとして、近畿ヘリテージマネージャー協議会近畿ブロック(2府4県)の団体代表8名と、和歌山県文化遺産課 御船達雄主任及び講演頂いた小谷竜介リーダーも参加して、各団体の活動報告とネットワークづくりについて意見交換をしました。各団体により活動は様々ですが、近畿の協力は必須であり、そのための対応策を「全国HMN協議会近畿ブロック総括」としてまとめ、セッションは終了しました。



【記：奈良ヘリテージ支援センター 紀本澄男】

⑤女性委員会では、連合会ホームページに掲載されている「魅力ある和の空間」ガイドブックの中から、近畿のものを抜粋しパネル展示を行いました。併せて、今年度服部緑地公園の日本民族集落博物館で開催された「くらしとすまいをみつめる継続セミナー」で作成した冊子を配布しました。省エネ等の数値ばかりに振り回されることなく、日本の古くから受け継がれる知恵と工夫、美意識により、快適で豊かに暮らす仕組みに興味をもっていただけたのではないかと思います。



【記：女性委員会 山本規子】

午後の部の④近畿建築士会協議会青年部会によるセッション、近畿あーきてくと Vol.31 も式典と同会場で開催され、今年は「地域の未来を担う建築士とは」というテーマのもと、近畿2府4県より選出された青年建築士による活動発表に加え、開催県でもある和歌山県からのゲスト発表もありました。

ゲスト発表は、海南市の冷水浦（しみずうら）で活動されています「Re SHIMIZU-URA PROJECT」代表の伊藤氏と所属の山下氏により～過疎集落におけるコモンズと暮らしの実践～と題して、衰退傾向にある過疎集落で3軒に1軒が空き家となった家群の現状を、一つの大きな家へと継ぎ接いでいく事を目標にかかげ、発案者の大工さんが現地移住をきっかけに、地元住民、設計者、滞在者らと「暮らしの共同体」として生活しながら更新し続けることで、日々目まぐるしく変化する現代社会のなかを、あえて時間をかけて丁寧に建築と向き合い、長き時間により育まれてきた集落という既存建築ストックのあり方についての取り組みを発表されていました。なお、この活動は建築家の登竜門的コンペでもあるSD レビュー2023 にも入選され評価されているそうです。

近畿2府4県の青年による発表では、滋賀県からは次世代育成事業に取り組み、小・中学校にて設計業務の体験型学習に会員自身が講師として授業を行い建築を伝えることで社会貢献活動に取り組んでおられたり、京都府からは木材を通しての建築に結び付いた木育事業など、建築士が行う教育事業への取り組みであったり、大阪府からは他の団体と共同にてワークショップ形式でエネルギーや自然災害との向き合い方、動物や植物との共生など SDGS などを視野に入れた事業取り組みであったり、兵庫県からは小学生の親子を対象とした市民向け建築スクールの報告や、和歌山県からは親子木工教室の事業内容など、各府県の様々な取り組みを知る機会となりました。



そして、奈良県からは「すきまヤタイ」～伐採から植林まで。地域のつくり手と住民をつなぐ試み～と題しまして、天理支部の桑原正弘氏より発表がありました。

今回は6年ほど前からの青年委員会の継承事業でもあり、地元子供達と共に行う伐採体験を通して伐採だけでなく、その木材を使った「ものづくり」を通して地域に貢献したいと考え、ご縁を頂きました斑鳩町「つくる暮らしの会」の皆さんと共に、事業展開を模索しました。

構想をつくる暮らしの会、図面設計を青年委員会が担い、制作は大工指導のもと共に行い、気軽に移動する事の出来る屋台が完成いたしました。この屋台を「すきまヤタイ」と、命名し地域住民と地域のつくり手をつなぐコミュニケーションツールとして使って頂く事となり地域のマルシェや催し物でのPR活動を通じて、行政、教育委員会から木育の視点からの相談を受けるなど様々なお声がけを頂く事となりました。

今回は「伐採から材木」として利用いたしましたが、今後はシェアサービスや制作ワークショップなど収益性も見込んだ活動を行い、「伐採から植林」までを目標に計画されているなど、地域貢献活動について熱く語っていただきました。

そのかいあって、最後に行います会場皆様からの投票による最優秀賞の選定に奈良県が選ばれ、全国鹿児島大会で発表させて頂く事となりました。

青年セッションでは、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山とそれぞれが熱く語りあい、大変有意義な一日となりました。

【記：青年委員会 塚本将貴】



奈良会が最優秀賞を受賞！

お知らせ

●合格おめでとうございます(奈良県)

令和5年一級建築士試験 合格者数 20名
二級建築士試験 合格者数 49名
木造建築士試験 合格者数 6名

●令和6年度通常総会の日程(予定)

日時: 令和6年5月17日(金)
場所: ホテルリガール春日野

●令和5年度の受賞者のご紹介

- 国土交通大臣表彰 副会長 中尾七隆 様
- 日本建築士会連合会表彰
会長表彰 澤田 貢 様(郡山支部)
同上 藤山久仁子 様(高田支部)

●「建築甲子園」で奈良朱雀高校が奨励賞受賞

(公社)日本建築士会連合会主催の2023年第14回高校生の「建築甲子園」が「地域のくらし-まちに住む・地域に開く住まい」をテーマに開催されました。本県では、県内選考を経て本選に送付された奈良県立奈良朱雀高等学校建築工学科の作品が審査の結果、奨励賞を受賞されました。



●入会

植村勇斗 様(桜井支部)
よろしくお祈りします。

編集後記

「防災意識を持っていますか?」と尋ねられ、「あります」と即答出来る方は果たしてどれくらいいるでしょうか。建築と防災は、両輪としてあるべきであり、建築士試験でも、年々その意味合いが色濃くなっていますね。私事ですが、新居に移り、昨年初めて町内対抗の運動会に参加しました。コロナ禍明け、久しぶりの開催だったようです。学生時代振りの運動会というものに、気恥ずかしさや体力の衰えを言い訳に参加を躊躇いしましたが、結果、良い大人達がチーム(町内)の勝利を目指し、頑張れたことで、町内の皆さんと一体感を共有でき、充実した日となりました。普段はご挨拶程度の町内の皆さんと改めて繋がることができ、良い機会となりました。昨今、地域との繋がりが希薄になり、周りの住民を知らなかったり、話す機会が減っている世の中ですが、個人で出来ることには限りがあります。今回、運動会への参加を通じて、お互いを知ることで、助け合える身近な環境づくりは大切であると実感し、防災対策の共助について、より意識することができました。

【記: 情報・広報委員 門脇直也】

3月 13日(水) 監理技術者講習
17日(日) 第4回山の辺の道まち歩き

4月



士会奈良 通巻654号

令和6年3月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話: 0742-30-3111 FAX: 0742-33-4333
<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 米村博昭
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会



情報・広報委員会

委員長	福田 成生		
副委員長	伊藤 吉郎	小西 直樹	
委員	吉村 晃人	平田 正裕	
	門脇 直也	溜谷 剛	
	永友 翔	松尾 憲治	
	上柿 範兼	鈴木 茂	
	小松原寛俊	洞 尚樹	
	押部 誠		

私の選択は
間違ってた
なかった

選んだのは、合格者の50%以上が
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター
令和4年度一級建築士試験合格/当学院受講生/併修
田中道子さん

1級建築士
合格実績 No.1

平成26~令和5年度

1級建築士設計製図試験

全国 10年間
合格者占有率

54.8%

全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

※全国合格者数は、(公社)建築技術教育普及センター発表による。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、無料の役割提供者、過去受講生は一切含まれておりません。(令和5年12月25日現在)

PRICE
DOWN

各講座のクオリティは上げながら
受講料を値下げしました

詳細は奈良校まで!

総合資格学院



開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511